

研究タイトル：

## 文化触変の視点からみる鉄道の文化史



|                 |                                       |         |                           |
|-----------------|---------------------------------------|---------|---------------------------|
| 氏名：             | 岡 秋君 / YAN Qiujun                     | E-mail： | yanqj196@sendai-nct.ac.jp |
| 職名：             | 助教                                    | 学位：     | 博士(国際文化)                  |
| 所属学会・協会：        | 日本国際文化学会, 日本東アジア実学研究会, 中国文化学会         |         |                           |
| 研究分野：           | 歴史学                                   |         |                           |
| キーワード：          | 文化触変, 鉄道文化史, 漢学者, 日中交流史, 日中全人教育, 国際文化 |         |                           |
| 技術相談<br>提供可能技術： | ・国際文化／歴史学の基礎知識<br>・日本語教育              |         |                           |

 名取  
 歴史学  
 考古学  
 博物館学

### 研究内容：

#### ■ 研究内容

- ・国際文化学的視点からみた東アジアの人的交流の解明
- ・東アジアにおける鉄道の文化受容
- ・日中の全人教育思想

#### ■ 研究シーズ

博士後期課程では、「伝統知識(漢学)と近代化」という研究ビジョンを持ち、明治初期の漢学者・岡千仞(おか せんじん、1833～1914)と、その周辺の漢学者をケース・スタディとして取り上げ、主に西洋知識の受容や東アジアの人的交流の両方面から研究を進めてきました。

博士課程修了後、文化触変(Acculturation)の事例研究の一環として、東アジアの地域社会が鉄道という外来文化に接することで、どのような拒絶を経て鉄道を受容するようになったのかを考察しました。具体的に言うと、一般に感情的な反発と捉えられがちな鉄道忌避説には、馴染み深い生活感覚の喪失に対する抵抗感が色濃く表れており、東アジアの土着文化がその背景にあることが分かりました。

現在の研究関心は、子どもの世界では、蒸気機関車の強く鳴り響く音がどのように高揚感をもたらしたのか、その感覚の変容がどのような教育的観念を反映したのかという問題です。また、1920～1930年代の日本と中国において展開された全人教育にも関心を持っています。それぞれの教育理論を比較検討し、相互の影響関係も確認したいと考えています。

#### ■ 関連論文

- ① 「鉄道忌避説から見る東アジアの土着文化」(『土着的近代』3, 2025年)
- ② 「清仏戦争期における日本人の清国渡航に関する一考察」(『国際文化研究』29, 2023年)
- ③ 「近代中国の生活綴方における「生活と表現」―壹子愷の児童教育観を手がかりに―」(『自然と実学』6, 2021年)
- ④ 「1870年代の日本におけるワシントンの人間像の一考察―岡千仞の『米利堅志』を中心に―」(『年報日本思想史』19, 2020年)
- ⑤ 「清仏戦争期における日中近代化の相違性の一考察―清国紀行文『観光紀遊』の鉄道建設論を手がかりに―」(『自然と実学』5, 2020年)

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

| 名称・型番(メーカー) |  |
|-------------|--|
|             |  |
|             |  |
|             |  |
|             |  |